

タマネギべと病の防除 積算温度で発生予測 見回りの無駄なくす

予測法から算出した予測初発日の適合性



※試験場所: 諫早市貝津町 農林技術開発センター圃場



タマネギべと病の防除対策の一つとして、圃場(ほじょう)の見回りによる一次伝染

これまでの、諫早湾干拓地で12月上旬に定植した場合の

株の抜き取りが有効です。しかし、一次伝染株の初発時期は年次変動が大きく、単に前年の通りに見回りを開始すると発生が遅い年には無駄な見回り作業が生じてしまうことから、生産者の負担を軽減するために初発時期を予測する技術の開発に取り組んでいます。

初発時期は、定植日からの日平均気温の積算値(積算温度)が400度に達する頃であることを明らかにしました。しかし、干拓地以外での適合性は不明であったため、これまでの試験結果を解析して得られた初発日の予測値(積算温度425・4±23・2日度)を諫早市内の異なる圃場で11月下旬～12月中旬に定植した普通タマネギに適用し検証を行いました。その結果、初発日はおおむね予測範囲内に確認され、積算温度425・4日度の90%に当たる積算温度382・9日度に達する日を基準とすると、初発に遅れを取らず見回りを開始できることが明らかとなりました。

なお、本成果は無防除の普通タマネギの試験結果に基づくものであり、薬剤防除の影響や早生品種への適合性は今後確認が必要です。

(県農林技術開発センター 環境研究部門病害虫研究室 研究員 柳井瑞帆)